



No.838 2021年
4月15日

国鉄労働組合東日本本部
港区新橋5-15-5 交通ビル7F
発行責任者 大沼 元
編集責任者 常盤 達雄

1人で悩まず
国労へ相談。
みんなで楽しく
がんばろう!

2021春闘 衝撃の定昇半額!

定昇回復の緊急申し入れを行う!

JR東日本会社は3月18日、ベ・ア5,000円等の国労要求からなる賃金改善の申し入れに対し、
①「ベ・ア」ゼロ ②定期昇給係数2（本来の二分の一）という、
コロナ禍で奮闘する社員感情を無視した回答を行いました。

国労東日本本部は、逆風の中の21春闘の取り組みとして、交渉期間中の「国労東日本ダイジェスト版」の発行回数を増やして情報発信に努め、組合員による春闘の取り組み強化とともに、組合未加入者にも支持を訴えてきました。同時に会社にも私たちの譲れない思いを訴えました。

青年・女性の訴えをぶつける

また、今年は青年部・女性部を中心に、1月～2月の間、JR採用社員を対象にした賃金実態アンケートを実施し（主な内容は本誌裏面）、約300名の回答をまとめ、交渉時の基礎データとして使用しました。

定昇の実施は黒字が前提

（第2回交渉）

会社は「内部留保（利益剰余金）は、今後会社が成長していくために必要な投資等に活用していく」「会社の経営体力はしっかりとあり、今後も成長投資を続ける」などの説明を行った中で、回答が定期昇給の半分カットであり、将来への投資はするが、社員には黒字までガマンしろ、という内容でした。

これを定期昇給といふのか?

定期昇給は、普通に働いていれば、所定昇給額（係数4）が実施されます。JR他社は定期昇給を完全実施してい

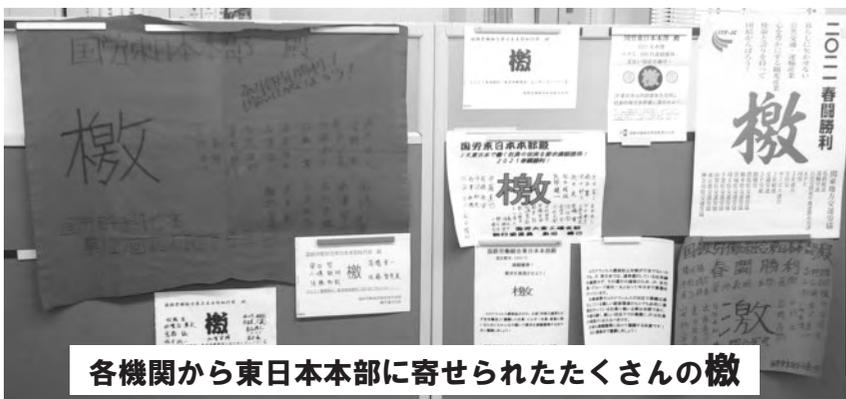
ます。JR東日本とJR他社との大きな違いは、社員の組合加入率で（東日本は約30%・他社はほぼ100%）社員から大きな異論は出ないと考えたのでしようが、基本給だけでも生涯賃金に100万円以上の差がでる事態に、若手社員の落胆と不信感は大きいものがあります。

年度途中での回復を強く要求

東日本本部は、3月24日に、①今回の判断は就業規則・労働協約のどの条文による判断か、②速やかな昇給・回復を求める内容の申し入れ（申17号）を提出しました。

交渉は3月31日に行われ、組合として「労働協約や就業規則では、昇給を減ずる場合は昇給調整条項（平素の勤務成績を十分に調査して）のみで、今回の考え方は疑問。昇給係数2が、社員のやる気に悪影響が出る。手

当などでのケアを求める。業績が回復したら、残りの昇給係数2を回復するとのメッセージを出してほしい」と主張。会社は「昇給の実施は、会社が維持・存続できると昇給係数は4以内で、今回は2といた。4を約束しているわけではない。2ゼロも含まれる。2期連続の赤字決算にはしない決意。生涯賃金に影響があることは認識している。昇給の回復は現時点



各機関から東日本本部に寄せられたたくさんの檄

JESSは

定昇完全実施

東日本本部は、JR東日本ステーションサービス（JESS）とも春闘交渉を行ってきました。

3月19日の交渉で会社は「社員・人材の確保・定着という観点からすれば、可能な範囲で社員の労働条件を向上させていくという方向性は考えている」などの説明を行ってきました。JESSは3月25日に回答を行い、定期昇給の完全実施（昇給係数4）と、昨年決定していた初任給5,000円改定の具体的経過措置について示されました。

では考えていない。基本給は下がった訳ではなく、上がっている「などのやりとりを行いました。東日本本部は、今後も引き続き「労働条件に関する協約の申し入れ」の中で議論を継続していきま

